

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2022年6月24日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

保険料（国保・後期高齢・介護）が高すぎます！生活が大変！ 14回目のなんでも電話相談会・札幌市内国保など相談会

保険料値上げ、安すぎる年金、低賃金などの新自由主義政策による格差と貧困の広がりや新型コロナの影響と政府の不十分な政策に加えて、物価高騰が生活や営業を脅かしています。

6月11日、10時から19時まで、雇用・くらし・SOSネットワーク北海道等が、「コロナ災害を乗り越える いのちとくらしを守る なんでも電話相談会」を行いました。また、6月末には、札幌市内各区で、国保・後期医療・介護無料相談会が行われています。



物価高騰・生活できない・コロナ資金返済できない

6月11日の「なんでも電話相談会」は、2020年4月から、全国的に2か月ごとに開催され、今回で14回目。各地から相談が寄せられ、北海道勤医協のMSWや弁護士、司法書士、労働・営業などの相談員が対応しました。今回は、30代から70代まで幅広い年代から相談があり、多くが生活費の問題でした。

デリバリー配達員で生活費が足りず生活保護を利用している30代の男性は、「コロナで2月と5月に感染したため、家賃等を20万円滞納していて、うつ状態になっている」と相談が寄せられました。生活保護を利用している40代の女性は、「物価があがり生活がきつい」。「窓口小口資金、総合支援資金をすべて使い切ったが、物価高騰で生活大変で返済が困難」という男性も。国には、物価高騰対策やコロナ対策の対象拡大や内容の充実が求められます。次回の相談会は8月27日。



保険料が高い減免にならないか？ 生活保護利用できない？

6月22日、北区民センターで国保110番相談会が行われました。事前に、案内チラシを新聞折込みや住宅へのポストインで5500枚配布。当日は案内チラシで知った方や知人の紹介で相談者は9人、生活と健康を守る会、民商、勤医協や勤医協福祉会の職員などの相談員が対応しました。

「国保料が高すぎる」「介護保険料が高すぎる」などの相談が寄せられ、コロナ減免の手続きをすることになった人もいました。また、生活保護についての相談も多く、「年金が月5万円しかなく、貯金を切り崩して生活しているが仕事を探しているが見つからない」という女性は、現在の預貯金が減少したら、申請することになりました。

23日には、白石区民センターで相談会が行われ、生活保護や国保料や後期高齢者医療保険料の相談に、生活と健康を守る会、民商、年金者組合、勤医協の相談員が応じました。



参議院選挙の争点： 払える社会保険料、生活保護の改善、コロナ対策の拡充へ

政府は、参議院選挙後、国保や後期高齢者医療・介護保険の保険料のさらなる値上げや生活保護基準の見直し(2023年度～)を検討しています。高すぎる保険料は払える金額に変え、生活保護やコロナ対策の拡充が必要です。